

35日間の夏休みが終わりました。都路中学校の生徒全員が、安全で健康な毎を送り、今日こうして無事に登校できたことを何よりもうれしく思います。また、夏休みとはいえ、学習や部活動、灯まつりでのダンスなどに一生懸命に汗を流す皆さんの姿を見て、都路中生は、鍛えればまだまだ伸びることを実感しています。

都路中学校では、皆さん一人一人を、「自らの志を語り、目標に向かって主体的に努力できる生徒」に育てることを最大の目標にしています。志とは、＜自分ではない誰かのために、将来どのような仕事をしたいのか＞といった強い思いです。皆さん一人一人が、自分の志を根拠や理由を挙げてプレゼン（発表）できること。そして、自分で決めた目標に向かって、自ら計画を立て、こつこつと努力できることを目指しています。「自らの志を語り、目標に向かって主体的に努力すること」は、大人になってからも大切なことです。都路中学校では、生徒も先生も、改善すべきことはスピード感をもって改善し、**Chance**、**Challenge**、**Change**の3つのCを大切に、自らの志を語り、目標に向かって主体的に努力できることを目指していきたいと思います。なお、今月から、1階の学習室脇の掲示板を、都路中生の志を育むためのコーナーとして使います。よく見て参考にしてください。

8月7日から10日まで、生徒会長の武田隼君と、公募で選ばれた1学年の吉田陽平君が長崎派遣事業に参加しました。長崎は、今年の8月9日、原子爆弾が投下されてから72年目を迎えました。ここで、原爆犠牲者慰霊平和祈念式典で、田上富久長崎市長が述べた平和宣言を少し紹介します。

「あの日、原爆の凄まじい熱戦と爆風によって、長崎の街は一面の焼野原となりました。皮ふが垂れ下がりながらも、家族を探し、さ迷い歩く人々。黒焦げの子どもの傍らで、茫然と立ちすくむ母親。街のあちこちに地獄のような光景がありました。十分な治療も受けられずに、多くの人々が死んでいきました。（中略）遠い原子雲の上からの視点ではなく、原子雲の下で何が起きたのか、原爆が人間の尊厳をどれほど残酷に踏みにじったのか、あなたの目で見て、耳で聴いて、心で感じてください。もし自分の家族がそこにいたら、と考えてみてください。（中略）世界中のすべての人に呼びかけます。最も怖いのは無関心なこと、そして忘れていくことです。戦争体験者や被爆者からの平和のバトンを途切れさせることなく未来へつないでいきましょう。（中略）福島原発事故から6年が経ちました。長崎は放射能の脅威を経験したまちとして、福島の被災者に寄り添い、応援します。」

震災と原発事故の大きな影響を受けた皆さんには、核兵器の廃絶と平和を願う気持ちを高め、ふるさとの復興や創生を担う人材となるために努力することを期待しています。なお、武田君、吉田君からの長崎派遣事業の報告は、藍爽祭

で行う予定ですので楽しみにしててください。

最後に、7月の集会で、皆さんに宿題を出しました。「都路中学校をもっと明るく楽しい学校にするために、『気持ちのよいあいさつ』ができるようになってほしい。『気持ちのよいあいさつ』とは、どのようなあいさつだと考えるか。各学年、各部活動、生徒会役員で、夏休みが終わるまでに話合いの機会をつくって、代表の生徒が意見をまとめ、発表できるようにすること」でした。

今日は、野球部のキャプテンに後ほど発表してもらいます。画に描いた餅で終わらないように、皆さん一人一人が意識して実践してください。